

二〇一一年度・学力考查問題【国語】

(中学帰国生)

注 意

- 一、試験時間は2科目合わせて80分です。
- 二、答えはすべて解答用紙にはつきりと記入しなさい。
- 三、解答用紙のみ試験終了後集めます。
- 四、問題は11ページで**一・二・三・四**の四題あります。開始の合図で必ず確認し、そろつていないう場合にはすぐに手をあげなさい。
- 五、本文の表現については、作品を尊重し、そのままにしてありますが、設問の都合上、省略した部分、表記を改めた部分があります。
また、特に指示のないかぎり、句読点なども一字に数えます。

——線あくおのひらがなを漢字に直しなさい。

- 1 日本の貿易はゆしうつが多い。
2 経済立て直しの議論に時間をついやす。
3 彼はとてもせいせきが良い。
4 初対面の人と意気とうごうする。
5 まちがいをいさぎよく認める。

―― 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

「わたし（＝母ちゃん）」はイギリス人の夫と息子と三人でイギリスに住んでいる。息子は近所の公立中学校に入学し、自分と同じように小柄な「タイム」という同級生と帰宅することが多い。かつて「タイム」は学校で、同級生と大げんかをして罰せられたことがある。

※¹ ミセス・ペーパルに賛同する女性教員たちと母親たちが始めた制服のリサイクル活動は、50円や100円で制服を売ることが目的で行われているわけではない。だから、「制服が必要な生徒を知っていたら、販売会まで待たずとも、自由にあげていいよ」と言われた。真っ先に思いついたのは、息子の友人のタイムのことだった。学校

帰りにうちの息子と一緒に歩いている姿を見かけたとき、制服のトレーナーがすいぶん年季が入った感じに変色し、ズボンの裾が擦れてギザギザになっていたことを思い出したからだ。

週末にミシンで作業していると息子が言つた。

「ねえ、母ちゃんが縫つてる制服、僕が買うことは許されてるの？」
「え？ でもあんた制服は全部2枚ずつ持つてるじゃん。どつかほつれてるならいま一緒に縫つちやうから持つてきて」
「いや、僕じゃないんだ。友だちにあげたいんだけど……」

「……タイム？」

同じことを考えていたのかなと思つて尋ねると息子は頷いた。

「トレーナーの肘のところが薄くなつてきて、なんかちよつと、腕が透けて見えちゃうようになつたから、お兄ちゃんのお古のトレーナーを着て来るようになつたんだけど、トレーナーの袖や丈が長すぎて、笑つてるやつらとかいてムカつくんだ」

「いつもそうやつて必ず笑うやつらがいるんだよね」

「もしもまた学校で喧嘩とかしちやつたら、今度はタイム、停学とか大変なことになつちやうかもしれないし」

息子は学級委員っぽい神妙な顔つきで言った（いつの間にか彼は今度は学級委員になつてしまつてはいるのだつた）。

「持つてつていいよ。袋の中から小さいサイズを探して持つてきて。先に縫つちやうから。2枚ぐらい持つてつてあげたらいい。あと、ズボンも」

と言つと、居間に並べてある黒いゴミ袋を開いてごそごそと中古の制服を物色し始めた。が、急に手を止め、こちらを振り返つて言つた。

「でも、どうやつて渡せばいいんだろう」

「え？」

「学校に持つて行つて渡すのは、ちょっと難しいと思う」

「ああ、そうだね」

息子は人目のあるところでは渡しにくいと言つてゐるのであり、それはなぜかというと、ティムが受け取りにくいからだということがわかる年頃になつたのだ。

「リュックの中に入れておいて、帰り道で2人になつたときに渡せば？」

とわたしが提案すると、息子は言つた。

「それもなんとなくわざとらしいつていうか、第一、何で切り出せばいいの？」

「……」

確かにそうである。高校時代に、貧乏と言つたら死ぬ、とわたしが思つていたように、ティムだつて友だちから制服をもらつて嬉しいとは限らない。傷つてしまふ可能性もある。

むかし、貧困家庭の人々が集まる託児所に勤めていた頃は、その託児所じたいが低所得者や無職者を支援するセンターの中につつたから、こういうことは考えずに物をあげたり、もらつたりした。そこに来て

いるのはみんな困つている人々だという大前提があつたので、利用者たちの間では、気取る必要も、恥をかくという意識もなかつたのであつた。けれどもその貧者の相互扶助サークルは閉じた特殊な世界でもあつたのだ。

2歩その外側に出れば、困つてゐる人を助けるということはこんなにもトリッキーなことになり得る。

「学校帰りに、うちに連れておいで」

そうは言つたものの、彼の前でこれ見よがしにガタガタとミシンをかけながら、「あれー、このサイズ、ちょうどティムぐらいじゃん、持つて帰る？」とか言うのもなんかベタ過ぎるよなあとか、「これだけあるんだからこつそり好きなの持つて帰つていいよ」とか言つて自分で袋の中を物色させたとしてもティムのサイズの制服だけすでにちゃんと繕つてあるのも変だよなあとか、考へてゐる間に月曜日がやつてきて、学校帰りに息子がティムを連れてきた。

とりあえず、なんとなくミシン作業をはじめておこう、と決めて居間に制服のゴミ袋を並べてミシンをかけながら2人の到着を待つていたのだが、息子と一緒に部屋に入つてきたティムは、制服の山に目を留めた。

「何、これ」

「母ちゃんが、制服のリサイクルを手伝い始めたんだ。ほら、ミセス・ペーブルがやつてるやつ。不要な制服があつたら持つて来いつて、こないだもプリント配つてたじやん」

「ふうん」

2人はソファに腰かけてゲームを始めた。熱中してゐる様子なので、とりあえずジユースとお菓子を出し、そのままわたしもミシン作業を行つていたのだが、突然ティムの兄から彼の携帯に電話がかかってきた。すぐ帰つてくるように言われたという。ティムの母親の妹が、小学生的の子どもを預けに来たらしく、ティムの母親は仕事のシフトが

入ったから、従弟の面倒を見るのを手伝えと言われたらしい。

「うちの叔母ちゃんの子ども、双子なんだけど、わがまま大変なんだ。兄ちゃんはキレやすいタイプだから、僕が帰つたほうがいいと思う」

そう言ってティムがソファから腰を上げた。

こんなにすぐ帰るとは想定してなかつたので、えつ、まだ制服を渡してないじやん、と焦つていると、息子も同じことを考えているようで、わたしのほうを振り向いた。ティムのためにとつておいた制服は紙袋に入れてミシンの脇に置いてある。「あれー、これティムのサイズじゃん」とかいうわざとらしい芝居をする準備もまだ全くしていなかつたのである。

「母ちゃん、それ」

と息子が言うので、わたしは急いで紙袋を彼に渡した。玄関のほうに歩いていくティムの後ろを袋を下げる息子が追いかけていく。

「ティム、これ持つて帰る?」

息子はそう言ってティムに紙袋を差し出した。ティムは「何、これ?」と言つてそれを受け取り、中に手を入れて制服を出した。

「母ちゃんが繕つたやつ。ちょうど僕たちのサイズがあつたからくすねちやつたんだけど。ティムも、いる?」

ティムはじつと息子の顔を見ていた。

「持つて帰つて、いいの?」

「もちろん」

「じゃあ、お金払う。だつてミセス・パープルが怒るだろ。今度来るときを持つてくる」

ティムがそう言うので、わたしが脇から彼を納得させるために言つた。

「気にしなくていいよ。どうせいくつ制服があるかなんて誰も数えてないんだし。それに、わたしがお直し不可能と判断した制服は捨ていいことになつていてるから、全然問題ない」^{※6 いちべつ}

「でも、どうして僕にくれるの?」

ティムは大きな緑色の瞳で息子を見ながら言つた。

質問されているのは息子なのに、わたしのほうが彼の目に胸を射抜かれたような気分になつて所在なく立つていると、息子が言つた。

「友だちだから。君は僕の友だちだからだよ」

ティムは「サンクス」と言って紙袋の中に制服を戻し、息子とハイタッチを交わして玄関から出て行つた。

「バーカ。また明日、学校でね」

玄関の脇の窓から、シルバーブロンドの小柄な少年が高台にある公園地に向かつて紙袋を揺らしながら坂道を登つていく後ろ姿が見えた。

途中、右手の甲でティムが両目を擦るような仕草⁴をした。彼が同じことをもう一度繰り返したとき、息子がぱつりと言つた。

「ティムも母ちゃんと一緒に花粉症なんだよね。晴れた日はつらそ⁵う」

「うん。今日、マジで花粉が飛んでるもん。今年で一番ひどいんじやないかな」

息子はいつまでも窓の脇に立ち、ガラスの向こうに小さくなつてい

く友人の姿を見送っていた。ティムの手元でぶらぶら揺れる日本の福砂屋のカステラの黄色い紙袋が、初夏の強い光を反射しながらてかてかと光っていた。

(ブレイディみかこ『ぼくはイエローでホワイトで、

ちょっとブル』(新潮社より)

b 物色

ア 適当な物を探し出すこと

イ 多くの物を手に取ること

ウ 物欲しそうにながめること

エ 物の優劣を定めること

※1 ミセス・パープル：息子の中學の教員のニックネーム。

※2 停学：学校の校則に違反した生徒の登校を一定期間禁ずる処分。

※3 神妙：まじめな様子。

※4 今度は：小学校では生徒会長をしていた。

※5 くすねちゃつた：ここでは、こつそり手に入れた、という意味。

※6 一瞥：をくれた：ちらつと見た。

問一 線a 「年季が入った」・b 「物色」とあります、本文

における意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 年季が入った

ア ていねいに扱ってきた

イ 年齢や好みに合った

ウ 長年着て使い古された

エ 思い入れがつまつた

問二 線1 「どうやって渡せばいいんだろう」とあります、この時の「息子」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選

び、記号で答えなさい。

ア 学校で制服を渡すことで、ティムが罰せられることがあつてはいけない。

イ ティムを傷つけないように、うまく制服を渡す方法が思いつかない。

ウ 学級委員だから、ティムに制服を渡すのだと思われたくない。

エ 制服を渡すことで、ティムが気分を悪くしてけんかになるかもしれない。

問三 線2 「一步その外側に（）なり得る」とあります、その説明として最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。なお、「トリッキー」とは、（）では「扱う時に工夫が必要になる」という意味です。

ア 一つの価値観が支配する中では、人を助けることが異様な「」とに思われてしまつということ。

イ 人目を気にする集団では、何をするにも気をつかい、困っている人を助けられないということ。

ウ 暮らし向きが多様な社会では、注意しないと適切な援助をすることが難しくなるということ。

エ 自分のことだけで手一杯な人々の中では、他の人のことを気にかけることができないということ。

問四

線I 「何、これ」・II 「何、これ？」・III 「持って帰つて、いいの？」とあります、それぞれの時の「ティム」の気持ちを説明したものとして最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア Iでは初めて見る光景に興味をもち、IIでは物を渡されることを不思議に思い、IIIではなぜ制服を自分にくれるのか理解できず混乱している。

イ Iでは異常な様子に疑念を抱き、IIでは何かを持たされたことに不安を感じ、IIIでは制服をただでもらえることに驚き、喜んでいる。

問五

線3 「彼の目に（）立つていて」がありますが、（）の「わたし」について述べたものとして最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。なお、「所在なく」とは、（）では「何もする」ことがなく」という意味です。

ア 自分がうその説明をしたことをティムが見破つて非難するのではないかと心配になり、どうすればよいのかわからなくなつてている。

イ 自分のわざとらしい説明にティムが不信感を抱き、今までも勝手に制服を自分のものにしていたのではないかと疑われたようく感じ、困っている。

ウ 自分と息子の気づかいを受け入れたティムがとまどいながらも感激している様子に安心し、胸がいっぱいになり動けなくなつてている。

エ 自分がティムをあわれんでいたのかもしれないということをティムの言葉で気づかされ、うろたえてどうすることもできなくなつてている。

ウ Iでは欲しいものがたくさんあることに感激し、IIでは制服をもらえる期待感を持ち、IIIではリサイクルに協力できることを喜んでいる。

エ Iでは目の前の様子に驚き、IIでは思ひがけず何かをもらえることに期待感が高まり、IIIでは制服をもらえることにとまどつてている。

問六　——線4「両目を擦るような仕草をした」とあります。が、この仕草から読み取れる「ティム」の気持ちを述べたものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 同級生に物をもらつたことよりも、友だちになつてくれたことがうれしくて感激している。
- イ 自分のことを友だちだと思い、制服をもらいやすく気を配つてくれた同級生の思いに感動している。
- ウ 自分の貧しい状況を同級生に知られてしまい、氣をつかわせてしまつたことを嘆いている。
- エ 自分の家の様子とは違う同級生とその母親との関係をうちやましく思い、悲しくなつている。

工 息子の同級生への思いを子供同士のやりとりから理解したので、息子の気持ちに寄りそおうと言葉づかいをも合わせながら、ティムの無事を祈つている。

問七　——線5「うん。今日——ひどいんじやないかな」とあります。が、この時の「わたし」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 息子の同級生に対する理解の深さを母親として認めたうえで、息子が学級委員らしく思いやりをもつた行動をとることができたことに感心し、喜んでいる。
- イ 息子と共にティムの立場を守れたことにほつとしつつ、同級生のことを考えられるようになった息子の成長と、子供同志のやりとりに感動している。
- ウ 息子が同級生の心情だけではなく体調も気づかう表現をしながら、さりげなく母親である自分のことをも心配してくれていることに感激している。

それが文化であり、民族の豊かさである。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。



何を今ごろと言われそなうだが、いわゆる若者言葉で、ヤバイという

言葉の意味を聞いたときは正直驚いた。私たちが使つてきのニュアンスとはまつたく逆。「あの試験どうもヤバイなあ」と言えは、落つこちやヤバイ」が、すごく旨いというニュアンスになつていて。

言葉が時代とともに変わっていくのはやむをえないことであり、とどめようもないところがある。いまとなつては「ら抜き言葉」の是非を云々すること自体、どこか間が抜けていると感じるほどに、わずか20年ほどのあいだに「ら抜き言葉」が一般化してしまつた。

私自身はいまもはかない抵抗を続けていて、どうしても「見れる」とか「食べれる」などの「ら抜き言葉」は使えないし、使うつもりもないが、若者たちの「ヤバイ」にはそれとは違つた違和感と危惧を抱

いている。「ヤバイ」が「旨い」「おもしろい」「かつこいい」「素敵だ」「気持ちいい」など、ほんらいかなりニュアンスの違つた感覚、感情をすべてひつくるめて一語で代弁してしまつといふところにまず引っかかる。

ある感動を表現するとき、たとえば「good」一語で済ませてしまふのではなく、そこにニュアンスの異なつたさまざまな表現があること自体が、文化なのである。「旨い」にしても、「おいしい」「まろやかだ」「コクがある」「とろけるようだ」などなど、どのように「旨い」

かを表わすために、私たちの先人はさまざまに表現を工夫してきた。
それが文化であり、民族の豊かさである。
いつも、もつてまわつた高級な表現を使えというのではまつたくないが、必要に応じて、自分自身が持つたはずの〈感じ〉を自分自身の言葉で表現する、そんな機会は、人生において必ず訪れるはずである。そんなときのために、私たちは普段は使わなくともさまざまな語彙を用意しているのである。語彙は自然に増えるものではなく、読書をはじめとするさまざまな経験のなかで培われていくものである。すでに大野晋氏の言葉を紹介したように、ひよつとしたら一生に一度しか使わないかもしれないけれど、それを覚悟で一つの語彙を自分のなかに溜め込んでおくことが、生活の豊かさでもあるはずなのだ。
すべてが「ヤバイ」という符牒で済んでしまう世界は、便利で効率がいいかもしれないが、その便利さに慣れていつてしまふことは、実はきわめて薄い文化的土壤のうえに種々の種を蒔くことに等しいのであるかも知れない。

「ヤバイ」は多くの形容詞の凝縮体であると考へることができる。「ヤバイ」一語で済ませるのではなく、それを自分の側からもつと細かいニュアンスを含めた表現によつて深めたいという話をしてきた。

しかし、先にあげたさまざまの状態や感情を表わす言葉は、それでXな、最大公約数的な意味を担つた形容詞なのである。必ずしも、その人独自の表現というわけではなく、誰にも通用する表現法であることから、「ヤバイ」とそんなに違つたものではないという反論も可能である。

話が飛躍するようだが、近代の歌人に島木赤彦がいる。彼はアララ

帰國 - 7 -

ギ派の歌人であり、アララギは「写生」をその作歌理念に掲げていた。なぜ写生が必要なのか。赤彦は『歌道小見』という入門書の中で、「悲しいと言えば甲にも通じ乙にも通じます。しかし、決して甲の特殊な悲しみをも、乙の特殊な悲しみをも現しません。歌に写生の必要なのは、ここから生じて来ます」と述べる。

短歌は、自分がどのように感じたのかを表現する詩形式である。歌を作りはじめたばかりの人の歌には、悲しい、嬉しいと形容詞で、自分の気持ちを表わそうとするものが圧倒的に多い。作者は「悲しい」と言うことで、自分の感情を表現できたように思うのであるが、これでは作者が「どのように」悲しい、うれしいと思ったのかが一向に伝わってこない。赤彦の言う作者の「特殊な」悲しみが伝わることがない。形容詞も一種の出来合いの符牒なのである。

斎藤茂吉は島木赤彦と同時期に「アララギ」を率いた近代短歌の巨匠であるが、彼に、母の死を詠んだ一連がある。歌集『赤光』中の「死にたまふ母」一連である。

死に近き母に添寝のしんしんと遠田のかはづ天に聞ゆる
(まもなく死のうとしている母の隣に寄り添つて寝ていると遠くの田んぼで鳴くかわづ(=蛙)の声が天にも届くようである)

のど赤き玄鳥ふたつ屋梁にゐて足乳根の母は死にたまふなり
(のどの赤い玄鳥(=燕)が二羽天井の梁(=天井を支える柱)にとまつている下で母は亡くなつた)

誰もが知っている歌であろう。一首目は「死に近き母」をはるばる陸奥の実家に見舞い、添い寝をしている場面である。普段は気にもならない蛙の声が天にも届くかと思われるほどに聞こえてくる。決して騒がしい声ではなく、しんしんと天にも地にも沁みいるような声である。一首が言つているのはそれだけのこと、まことに単純な事実だけを詠つている。二首目も、母がもう死のうとしている枕元、ふと見上げると喉の赤い燕が二羽、梁に留まっていた。ただそれだけである。ここには「悲しい」とか「寂しい」とか、そのような茂吉の心情を表わす言葉は何一つ使われていないことに注意して欲しい。にもかかわらず、私たちはそのような形容詞で表わされる以上の、茂吉の深い内面の悲しみを感受することができる。考えてみれば不思議な精神作用である。文章の上では何も言われていない作者の感情を、読者はほとんどの何の無理もなく感受することができているのである。

もしこれらの歌のなかに、茂吉の感情として「悲し」「寂し」など形容詞が入つていたとするならば、一般的な感情としては理解できるが、それだけではけつしてその時の茂吉の悲しさ、寂しさを表現したものにはならないだろう。悲しい、寂しいという最大公約数的な感情の表現でしかないからである。「決して甲の特殊な悲しみをも、乙の特殊な悲しみをも現しません」と赤彦の言う通りである。

短歌では、作者のもつとも言いたいことは敢えて言わないで、その言いたいことをこそ読者に感じ取つてもらう。単純化して言えば、短詩型文学の本質がここにあると私は思つてゐる。

これはかなり高度な感情の伝達に関する例であるが、私たちは自分の思い、感じたこと、思想などを表現するのに、できるだけ「出来あ

いの言葉》を使わずに、自分の言葉によって、自分の思いを、人に伝える。この大きさをもう一度確認しておきたいものだと思う。

ヤバイ、カワイイだけで通用していた社会は、すぐに卒業ということになり、いよいよ実社会へ出ることになる。就職という課題が目の中に現れると、途端に言葉遣いが変わってくる。⁴ 「オニシャン」などといふ慣れない言葉が飛び出すようになるのを見ているのは痛々しいことだ。

「オンラインショッピング」などという出来あいのマニユアル通りの言葉を使うような若者は、イの一一番に勿ねてしまうだろうと思うのだが、どうだろう。すでにできてしまつてはいる言葉の世界で、みんなが使う言葉でしか自分を表現できない若者に、いつたい独創性と/or個性と/orを期待できるのなのだろうか。一企業を主体的に担うに足る人材とは、そんなものではないはずである。

もう一つ驚くのは、若者たちのメールを打つ早さ。打てば響くよう
にケータイでメールを返しているさまは驚嘆に値する。
さわやかたん　あい　ひび

実際は、彼らといえども返事をすべて打っているわけではないらしい。「あ」と打てば「ありがとう」と、「ま」と打てば「また今度」と変換されるらしい。これを予測変換機能と言う。

この機能はすこぶる便利で早いが、これだけでメールをやり取りしていたのでは、用を足すだけで、会話にはならない。いわば鸚鵡返しの対話が、ケータイのショートメールを介したコミュニケーションの大半を占めているらしい。

コミュニケーションという言葉は、本来違う価値観を持つていた人間同士が、価値観の違いをまず認識し、それを共有するというところに語源がある。最初から同じ価値観と言葉で用が足りている仲間うちでは、そもそもコミュニケーションという言葉は意味をなさない。

本来自分という存在は、人と違うから自分なのであって、人とまことに同じであれば、自己という存在は意味がなくなる。その違うといふことをお互いに大切にするには、相槌や共感や符牒だけで済ましていいわけには行かなくなるだろう。人と違うことに違和感を抱き、でいるだけ同じになろうとするのではなく、人と違うところにこそ、自分がいう存在の意味があることをもう一度思い出しておきたい。

※ 1 危惧きぐ：恐れや不安。
 ※ 2 語彙ごい：様々な言葉。

※3 すでに大野晋氏の言葉を紹介

※3 すでに大野晋氏の言葉を紹介したように：「人生で一度しか使わない言葉も不要ではなく、その一度の機会で正しく使うことが大切である」という日本の国語学者の言葉が前の部分に紹介されている。

※5 島木赤彦：明治以降に活躍した歌！
※4 符牒：意味をもたせた文字や記号。
しまぎ（あかひこ）

※6 短詩型文学：短歌や俳句のこと。たんし けい

※7 オンシヤ：就職活動をする学生が相手の会社に用いる表現。「御社」と書く。

問一　——線1 「違和感と危惧」とあります、「若者たち」の「ヤバイ」という言葉に対する「違和感と危惧」の説明として最も適当なものを次の 中から選び、記号で答えなさい。

- ア 正反対な意味を一つの言葉で表現してしまって、日本語が貧しくなるのではないか、ということ。

イ 若者が乱暴な言葉を使っていることで、言葉の変化があまりにも激しくなってしまうのではないか、ということ。

ウ 言葉には過去の人々が築き上げた豊かさがあるのに、若者は一語であらゆる意味を理解してしまうので、言葉を学ばなくなってしまうかもしれない、ということ。

エ 若者が使い始めた新しい言葉の用法は、今までと大きくかけ離れたものなので、対話が成り立たなくなってしまうのではないか、ということ。

問二　——線2 「それが文化であり、民族の豊かさである」とありますが、それらはどのようにによってもたらされるのですか。その内容の説明として最も適当なものを次の 中から選び、記号で答えなさい。

ア 一つの単語には常に多くの意味があり、様々な受け取り方が可能だということを意識しながら生活すること。

イ 感動的な表現ができるように、過去の人々が工夫を重ねてきた様々な言葉を学び続けようとしています。

ウ その場にふさわしい独自の表現ができるように、日々から多くの言葉を吸収していくとする」と。

工 一つの表現から多くの意味を生み出す努力をすることで、人々の生活を豊かにしていこうとしています。

問三 本文中の □ X においてはまる言葉として最も適当なものを次の 中から選び、記号で答えなさい。

- ア 意図的 イ 本質的 ウ 個人的 エ 一般的

問四　——線3 「茂吉の（）できる」とありますが、茂吉のどのような歌の詠み方が、「深い内面の悲しみ」を私たちに感じさせるのですか。その説明として最も適当なものを次の 中から選び、記号で答えなさい。

ア だれもが共通してイメージできそうな形容詞を使うこと。

イ 心情を表す形容詞を使わず単純な事実だけを述べること。

ウ これまでにない新しい言葉を生み出すこと。

エ 情景と感情をおりませて、細かく表現すること。

問五 線4 「『オンシャは』～痛々しいことだ」とあります
筆者はどのような点を「痛々しい」と考えているのですか。その

説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
同じ価値観の集團にとどまることにこだわったために、就職をしたのに今まで使っていた言葉しか使えない点。

イ 就職によって今までの価値観から出ていく時に、これまで

努力してこなかつた表現の工夫を必死で行わざるをえない点。

点。

ウ 就職によって今までの価値観から出さるをえなくなり、表現を工夫する訓練をしてこなかつたために社会でも出来合いの言葉しか使えない点。

エ 就職という新しい社会に出ていく時に、言葉の工夫をしてこなかつたので将来の展望が描けない点。

四

言葉の意味や使い方に関する後の問い合わせに答えなさい。

問 次のカタカナ語を日本語の表現（漢字・ひらがな）で書きなさい。

1 ツール

2 ユーザー

3 テクノロジー

4 モチベーション

5 サクセス

問六 筆者にとって「コミュニケーション」とはどのようなものです

か。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 本心をうまく伝えられずに誤解こないを引き起こすことが多くなってしまうもの。

イ 自分の言葉で相手に気持ちを効率よく伝える機会さえ得られれば成り立っていくもの。

ウ 表面的なやり取りで成り立ち、相手との価値観の違いを際立たせるもの。

エ お互に考え方の違いがあることを理解し、それを受け入れようとするところから始まるもの。

国語

解答用紙（中学帰国生）

問五 <input type="text"/>	問二 <input type="text"/>	問一 a <input type="text"/>	問一 b <input type="text"/>	一 <input type="text"/>
問六 <input type="text"/>	問三 <input type="text"/>			あ <input type="text"/> ゆしゅつ
問七 <input type="text"/>	問四 <input type="text"/>			い <input type="text"/> つい
				う <input type="text"/> やす
				え <input type="text"/> せいせき
				え <input type="text"/> とうじょう
				お <input type="text"/> いさぎよ

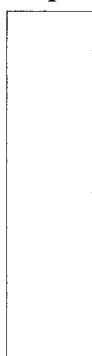
受験番号			
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

氏名	
<input type="text"/>	<input type="text"/>

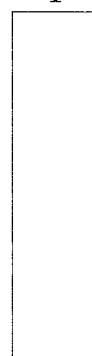
得点	
<input type="text"/>	<input type="text"/>

四

4



1



問

四



三

問

一



問

五

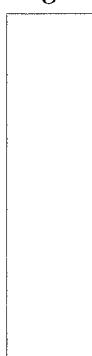


問

二



5



2



問

六



問

三



3

